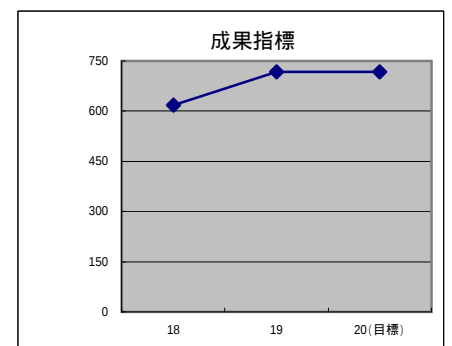
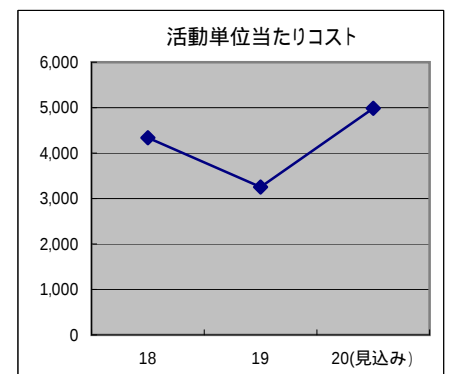


事務事業名		スポーツ少年団関係業務		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	10	教育費	
					項	6	保健体育課	
					目	1	保健体育総務費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	事業	2	体育振興		
	施策(節)	4	市民スポーツ・レクリエーション					
	施策の方向	(2)	スポーツ・レクリエーションを推進する仕組みづくり	作成部署	教育委員会事務局生涯学習室スポーツ振興課			
関連する計画等				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 4411			
事業の目的								
対象(誰を・何を)								
羽曳野市スポーツ少年団の青少年・指導者(本市スポーツ少年団の登録者:団員・役職員・指導者)等								
意図(どういう状態にしたいのか)								
日本スポーツ少年団の理念に基づき、スポーツを通じて青少年の心身の健全な育成を図るスポーツ少年団の活動を支援し、スポーツ振興を図る。								
事業の内容								
1. 各種スポーツ活動 2. 他団体との交歓、交流活動 3. 市主催事業への参加 4. 指導者の研修事業 5. その他羽曳野市スポーツ少年団及び単位団が目的達成に必要な活動								
根拠法令等		スポーツ振興法、						
事業開始時期		☐ 昭和 ☐ 平成 年 月開始 ☒ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度						
事業開始時からの状況変化		本市スポーツ少年団及び単位団結成の拡充並びに青少年のスポーツ活動の普及・促進がなされている。						
市民や議会の要望								
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先								

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		1,000	570	1,070
人件費【2】 (千円)		1,680	1,764	1,680
職員数	正規職員	0.20 人	0.21 人	0.20 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,680	2,334	2,750
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	2,680	2,334	2,750
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
スポーツ少年団団員登録数 人		618	717	551
スポーツ少年団単位団登録数 団		19	19	19
スポーツ少年団指導者登録数 人		177	182	186
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】)		4,337 円	3,255 円	4,991 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		22 円	19 円	23 円



成果指標	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	団員登録数(人)	(式)	日本スポーツ少年団への本市スポーツ少年団の団員登録数	目標	494	618	達成率(%)
				実績	618	717	116.0%
	単位団登録数(団)	(式)	日本スポーツ少年団への本市スポーツ少年団の単位団登録数	目標	18	19	達成率(%)
				実績	19	19	100.0%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	スポーツ少年団は、心身の健全育成、スポーツの普及・振興をするために、積極的に市の関与が必要である。
○						○	○		○		

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	青少年の心身の健全育成、スポーツの普及・振興並びに指導者の育成が実現しており、ニーズも高い。	
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐		
	社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒		
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐		
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐		
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐		
	緊急性が認められる	☐	☐	☒		
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	スポーツ少年団の運営支援に関する事務量を考慮すると、人員の配置及び単位コストは適切だと考えられる。	
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐		
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐		
	簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐		
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐		
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☐	☒		
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	スポーツ少年団は、青少年の心身の健全育成、スポーツの普及・振興をするために、有効な事業・業務である。	
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐		
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐		
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☒		
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	スポーツ少年団の自主事業の実施だけに留まらず、市主催等各種事業に参加するとともに、事業実施に伴う運営協力も得られている。	
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐		
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☒	☐		
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐		
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	少子化等の影響が心配されるが、毎年、目標値以上の実績値が確保されている。	
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐		
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐		

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	スポーツ少年団の自主事業の実施だけに留まらず、市主催等各種事業に参加するとともに、事業実施に伴う運営協力も得られており、青少年の健全育成の担い手として期待が大きい。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	スポーツ少年団の活動がより活発に実施できるよう取り組む必要がある。	